

【事例プロフィール】

男性 19歳

障害名：脳出血による左片麻痺

身体障害者手帳：1種2級 左上肢機能障害（3級）・左下肢機能障害（4級）

障害履歴：

平成28年10月、大学1年（18歳）の時に自宅で倒れ、救急病院に搬送、開頭血腫除去術施行。急性期治療後、回復期リハビリテーション病院に転院しリハ施行し日常生活自立。退院後、家庭復帰するが、閉じこもりがちであり一日中何もしないため、家族が心配して当事業所に利用相談があり、本人も利用希望したため、相談支援事業所と連携し、サービス等利用計画を策定の上、平成29年9月4日から通所を開始する（1年間の利用を想定）。

【医学的所見】

原疾患：脳動静脈奇形に起因する脳出血

ブルンストローム・ステージ：上肢 IV、手指 IV、下肢 V

日常生活自立。移動は、短下肢装具装着＋T字杖での単独歩行及び階段昇降可能。

現在、6カ月に1度の定期受診で術後経過観察中。抗てんかん薬服用

【利用契約時の希望】

本人：訓練を受けて、左片麻痺を改善したい。将来のことを考えられない。

家族：退院時には日常生活は自立したので規則正しい生活に努め、自分で何でも行うように言われたが何もしようとしない。自宅でも家事等を担うこともこれから先に役に立つ気がする。もっと社会活動に参加して、できれば復学して卒業後は就職して欲しい。

【初期面接】

- ・ 地元の小・中学校・高校を卒業。高校から吹奏楽を始めた。大学文学部英文科(現在休学中)入学後、吹奏楽サークルに入り(主にトロンボーンを担当)、熱心に取り組み、友人も多かった。自宅から電車通学である。自動車免許も取得している。
- ・ 現在の生活は、自宅でテレビ鑑賞やインターネット閲覧しながら過ごす日が多い。
- ・ 家族は父(52歳会社員)、母(50歳パート)、姉(22歳・大学生)弟

(16 歲・高校生)。全員同居。關係良好。